

ロータリーを实践し
みんなに豊かな人生を



Weekly
尾張旭ロータリークラブ

会長 箕輪 良孝 ・幹事 加藤 清久 ・会報 福岡 健
 ・例会日 毎週金曜日 12:30 ・例会場 〒488-0801 尾張旭市東大道町原田2570-3
 ・事務局 尾張旭商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail: owariasahi@mte.biglobe.ne.jp URL: http://www.owariasahi-rc.jp/

～磨いて 輝こう～

本日 第2084回 2013年12月6日(金) No. 1972

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「君が代」・「奉仕の理想」

年次総会

卓話者: 交換留学生

ロビン・マリー・クリア 様

演 題: 「アメリカから日本に来て」

前 回 第2083回 2013年11月29日(金) 記 録

- 齊 唱: 「日も星も風も」
- ゲスト: 名古屋経営短期大学講師 近藤 城史様
 名古屋経営短期大学学生 筒井 星良様
- 来訪者: 愛知長久手RC会長 山田 文明君
 愛知長久手RC 田中 信子君
 瀬戸RC 杉浦 一博君
- 出席者: 会員27名中20名出席 出席率74.07%
 前々回補正出席率 11月15日分 100%



△左から近藤城史様、筒井星良様、桜井青少年委員長

ask not what your country can do for you
ask what you can do for your country

この言葉は、元ロータリアンでもあり、元アメリカ大統領 ジョン・F・ケネディが演説した有名な、とびきりの名文であります。

このスピーチを訳しますと「国が諸君に何をしてくれるかを問うのではなく、諸君が国に何をやるかを問おう」という文言で、おそらく皆さまはどこかでお聞きになったかと思えます。私は正にロータリー精神が入った言葉ではないかと思えます。この文言をロータリーに置き換えますと、「ロータリーが皆さまに何をしてくれるかを問うのではなく、皆さまがロータリーに何をなす得るかを問おう」と言い換えれば、奉仕の意味がおのずと解るような気がいたします。

幸いにも今月はロータリー財団月間であります。財団の使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて、ロータリーの綱領とロータリーの使命を遂行し、世界理解と平和を達成しようとする、国際ロータリーの努力を支援することです。

制約を受ける場合がありますので、ロータリー財団

副会長 あいさつ 古橋 裕志

先日、喫茶店に入り、普段はあまり読まない読売新聞を見ましたところ、あるコラムが目に入りました。

----- 家族月間 -----

	12月13日(金)	12月19日(木)	12月27日(金)	2014年1月3日(金)
例会予定	卓話者: 浅野 善吉君 演 題: 「消費増税と2014年度の経済見通し」 卓話者: 森井 晴生君 演 題: 「心に浮かぶままに」	20日(金) 振替 年忘れ家族会 於ザ・パーク・パンケット (名古屋テレビ塔4F)	規定休日	規定休日

を通じて、私たちの気持ちと奉仕を寄付と言う形で寄与することも大事かと思えます。

インターシティー・ミーテング PR

日時 2014年2月15日(土) AM9:00～
場所 ウェスティンナゴヤキャッスル
テーマ「地域環境に対して、ロータリーができること」
基調講演 武田 邦彦氏 (中部大学 教授)



インターシティーミーテングには多数ご出席を。
愛知長久手RCがホストです。

山田文明会長(右) 田中
信子社会奉仕委員長

幹事報告

- ・11/23 RI第2760地区 地区大会 於ウェスティンナゴヤキャッスル 箕輪良孝会長、加藤清久幹事出席。
- ・11/24 RI第2760地区 地区大会 於ウェスティンナゴヤキャッスル 箕輪良孝会長以下14名出席。
- ・本日の会合：第5回地区研修協議会実行委員会
- ・次回の会合：年次総会
第9回理事役員会
- ・例会変更のお知らせ：別紙

ニコボックス

○いつもお世話になりありがとうございます。本日は来年2月に行われますIMのご案内にまいりました。どうぞよろしく願いいたします。

- 愛知長久手RC 山田 文明君、田中 信子君
○新入会員で解らない事ばかりですが、よろしく願いいたします。 瀬戸RC 杉浦 一博君
○名古屋経営短期大学の近藤様、筒井様の卓話を楽しみにしています。 桜井 雅博君
古橋 裕志君、加藤 清久君、菊田 利昭君
唐井 仁一君、舟橋 龍秀君、古橋エツ子君
○愛知長久手RC、山田文明会長、田中信子社会奉仕委員長、ようこそ。 古橋 裕志君
加藤 清久君、菊田 利昭君、森井 晴生君
○先日は谷口先生に大変お世話になり、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。 丹羽 敏行君
○お忙しの君。 浅野 善吉君

卓 話

「東日本復興支援について」

名古屋経営短期大学 講師 近藤 城史
名古屋経営短期大学 学生 筒井 星良

卓話 I
名古屋経営短期大学講師

近藤 城史

(こんどう なりひと)

KEIEITANボランティア隊の2013年度活動報告です。

日時：平成25年9月10日(火)～13日(金)の
3泊4日

場所：福島県いわき市、会津若松市

参加者：学生7名、
引率教員2名

総合ビジネス学科

1年 筒井 星良

子ども学科

1年 石井 華

子ども学科

1年 鶴飼 彩夏

子ども学科 1年 三浦 史緒里

健康福祉学科 1年 荒 七津美

教員 総合ビジネス学科 渡部 琢也、

近藤 城史



内容：

- ① スタディーツアー
 - ② 九品寺附属幼稚園
 - ③ 中之作プロジェクト
 - ④ 豊間中学校&薄磯海岸
 - ⑤ 被災地復興支援観光ボランティア
- <12月活動予定>

南三陸町の保育園へのクリスマスプレゼント

- ① フォーク 300個(青・ピンク各150個) + お菓子
- ② 「ちよっとん貯金箱」 100個

卓話 II

震災復興ボランティア 2013 ～スタディーツアー～

総合ビジネス学科

筒井 星良

体験交流型復興支援事業 スタディーツアー
私たちは“NPO法人ふよう土2100”が行っているスタディーツアーに参加しました。



このツアーは、2011年3月1日に起こった東日本大震災で津波・原発事故の被災地となってしまった福島県で被災地のいまの姿を目に焼き付け、震災を機に生まれた新たな試みを体感してもらい、自分たちができることを発見し、未来へつないでほしいという願いの元行われています。

スタディーツアーの訪問先は津波の被災地、原発周辺区域への訪問復活を遂げた商店街オーガニックコットン畑です。

まとめです。

今回のボランティアで、4日間、福島県の現状を見、震災の恐ろしさを再確認した。

自分は実際に体験したわけではないけど福島の人々の思い、被災地の現状を見て多くの人たちが知らなければならないことだと思った。そしてこれからは見て、聞いて、感じたことを多くの人に伝えていきたい。

福島の人だけじゃなく、みんなで頑張る。震災から2年8か月が過ぎてもまだまだ復興しなければ、ならないことはたくさんあります。

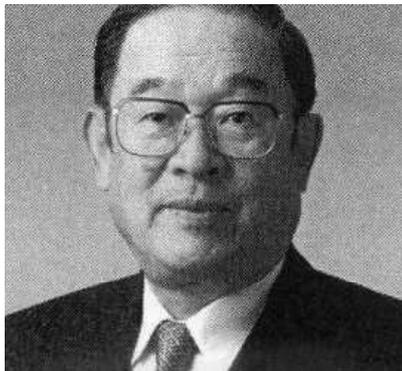
RI第2760地区 地区大会

日時 2013年11月24日(日)

場所 ウェスティンナゴヤキャッスル

(ちょう ふじお)

張 富士夫氏講演



1 はじめに。

1986年、米国責任者としてケンタッキー州ジョウジタウンに工場を創れとの辞令。

レキシントンは8000-9000人の町で、87年より住み、ジョウジタウンRCに入会した、私はロータリアンです。

アメリカの人々は、この国は素晴らしいと誇りに思っています。

アメリカ人はリバティとフリーダムを尊重、岡本行夫氏曰く、日本人は平和です。

赴任中、びっくりすることが一杯出てきて一つ一つ克服したが、こうした事例がどんどん出てきたので、2002年、「トヨタウエイ」を作成、工場進出時の共通理念とした。

いずれ現地の責任者にまかすのであるから、「これを守っていただく」、でないともかせられない。

2 「トヨタウエイの背景」(いきさつについて)

トヨタ1937年の創業、終戦前後は大いに苦勞、GMの車を分解して研究、米国流を学んだ。

自動車の父は、トヨタ喜一郎、「乗用車を作らなければ自動車メーカーといえない」、昭和30年、国産初のクラウン誕生、1次および2次のオイルショック、マスキー法をこえ、結果、車は重く高くなったが、1970年代の後半から米国で順調に日本車が売れ出した。

日米経済摩擦が生じ、「現地生産をやれ」、1980年代からグローバル時代が幕開けした。

50年間、日本で製造輸出してきたが、1980年よりグローバル時代に向かっていった。

1984年11月6日、「すぐ行ってこい」、英語ができず、部長職、企業経営も知らない中での話、どうせ行くなら楽しもうと。

現地に入り、仕事でぶつかることが多い、文化習慣が違う、日本人60人、アメリカ人3000人で「乗用車カムリ」の生産、20万台一年のスタートである。

自動車はプレス、溶接、塗装、組立4工場、すぐに樹脂工場も増設、上院議員の要請でエンジン工場も作り、1994年まで10年滞在した。

毎日デスクッションの連続、日本人は建て前と本音

を使い分けるが、アメリカ人は素直に「yesはyes」と「noならno」である。

本音と建て前を使い分けると「裏切られた」、「だまされた」と言われる。

また権限委譲でも、日本は「権限は”部下、責任は上司」、常識化されているが、アメリカでは「権限と責任」は一体と捉えている。

日本人は結果の平等を求めるが、米国人は「機会の平等」を求める。

現地で皆勤表彰をしたとき、日本では該当者全員にと考えるが、10台、車を籤でプレゼント、心配したが、アメリカの人、外れた人は何も文句言わず、大きな楽しみに成長した。

様々な事柄に遭遇しながら、経営をしてきた。

帰国し、やがて、現地の人間に経営をまかすが筋論、しっかりした理念をつくり、これにあう人をtopにしようと考え「トヨタウエイ」を作成した。

3 トヨタウエイ

知恵と改善

i チャレンジ

ii 改善

iii 現地現物

個性尊重

i リリースペット

ii チームワーク

3-1 チャレンジ

工場生産が始まったばかりのとき、フロリダの人が来て、「品質に充分注意を」、日本製と同品質にしないと米国製が売れなくなる、カルフォルニアのバイヤーも、「品質一番」と言われた。

だが、95%の人がケンタッキー、全員が素人、そこで日本人は大いにチャレンジした。

私は、15年間、現場で大野先輩に薫陶を受け、「現場」の改善を、「ジャストインタイム」の製造方法を創ってきた、その知識を十分に活用して品質の向上に努めた。

問題が生じたら、まず、ラインをとめる。

しかし、日本人は、汎用の人間として採用される、しかし、アメリカ人は職種によって採用される、この考えが馴染まぬと考え、職種を1職種にし、班長、組長が考え改善してゆくようにした。

標準行程がうまくなる、台数にこだわるな、割と早くマスターしてくれ、合い言葉、「トヨタ堤工場に負けるな」

おまけの話、NO1の会社になった、アメリカの方がチャレンジ精神は旺盛である。

3-2 改善

一般にアメリカ人のものの考えは、ブルーカラーが製造現場、ホワイトカラーは企画、立案で指導することで、この両方にまたがる考えはびっくりしていたが、改善に向かって両者へだたりなく進めていった。

自動車の先進国フォード社においてライン生産が始まったが、アメリカでは4年に1回、全面ライン改装と言われたが、我々は、この「改善」を武器に毎日挑戦した。

「デイリー インプルヴメント インクルメント」

日本は農耕民族なので、この考えはあたりまえであるが、狩猟民族のアメリカ人は、個人的、しかし、こういうことをやるといえばどんどんやっていった。

3-3 現地現物

ケンタッキー工場にて、初め、ヤンキーの雇用を言った、彼らは北部の人間と反対、そこで、現地の人ひとを中心に、上級職のみとした。

しかし、マネジメントスタイルが違い彼らは指示のみであった。

私は、毎日、現場に行くので、彼らも若干そうした状況に慣れてきたが、あるとき、ボンネットの外板と内板を接着する2種類の糊を間違え70部品ぐらいの「おしゃか」をだした、担当の上司に改善を指示、上司は、「俺は首になる」と本気で考えた。

だが、その現地現物の精神は、それらの事例を踏まえながら、段々と良い方向に向かった。

プランは上司、アクションはブルーカラーの考えが表面にでた一例であった。

3-4 個性尊重

自動車は伝統的にノックダウン方式（ゴアンドシー）。

米国は個人主義、個人が自分でできる、自動車のバイヤーになりたければ、学校で資格を取る、教育は自分で金をかけ身に付ける、日本は会社が人材を育成する、会社の金でやってくれるは不思議に思う、日本は協力会社も育成する。

また、欧米は選ぶ文化、リーマンショックで自動車が売れなくなったとき首切りをしなかった、アメリカでは当然解雇であるが、そのとき会長であったがしない、希望退職はした。

働いている人、家族主義は現場の人が喜んだ、ホワイトカラーの人は心配した。

みんな仲間、人を大切に作る企業、組合なしで大いにミーティングした。

また、アメリカ人は手首が弱く腱鞘炎になりやすい。分業に慣れている彼らを様々な職種に就けるのは大変であったが、職種を「プロダクションワーカー」の1業種にして、ライン全般の仕事に付かせ、手首の負担を軽くしたりもした。

さらに、ラインの1単位の仕事を時間分析して人数を減らしたりしたが、合理的で理論的と言われ喜ばれたこと、心配しなくてよかった。

4 おわりに

現在52カ国、50猶予の工場で自動車を生産しているが、経営全体からみると戦略ができた時に対応出来る。「トヨタウェイ」の哲学があるから。

現在、技術は日本、製造、販売は現地にて、世界は170か国、車の要求は、さまざまで千差万別であるが、その要求に支障がないように、プラットフォームを共通に、部品を共有化して努力している。

これからの自動車は、早急に電気、HV、ディーゼル、アルコール、燃料電池等、多種多様の要求が出て技術開発競争が激しくなる、どこで作ってどう売るか、人材の育成をグローバル人材センターで、クレーム処理の大切さ、乗り越えゆくために「トヨタウェイ」が根っこになるであろう。

加藤 清久記録

第4回地区研修協議会 実行委員会報告

- と き 平成25年10月25日（金）13:40～
と ころ 尾張旭市商工会館 第一会議室
- 議 事 1、ガバナーエレクトの考えとして、分科会を最重要視して欲しい。
2、分科会の結果を発表して欲しい。
3、次回指導者会議（名鉄グランドホテル）に参加して欲しい。
4、友愛の広場を分科会に設営するため、その所要時間を確認する。
5、友愛の広場の壁面に机を設置したらどうか。
6、応援スタッフに名古屋経営短期大学の学生に依頼したらどうか。
7、分科会の結果報告時間が3分では足りないし、意味が無い。
8、当日の司会役を古橋エツ子君が希望。
9、分科会の役割表の内容については、ガバナーエレクト案で決定。
10、次回の実行委員会は11月29日（金）に決定。

第5回地区研修協議会 実行委員会報告

- と き 平成25年11月29日（金）13:40～
と ころ 尾張旭市商工会館 第一会議室
- 議 事 1、ガバナーエレクトの考えとしては、あまり意味が無いセレモニーは省いて研修協議会の意義と目的にそった思い切った内容と運営をホストクラブにおまかせしたい。
2、「ガバナー講話」を「ガバナー所信表明」として30分以上なるべく多くとる。
3、点鐘、国歌、ロータリーソングは開始のけじめとして行う。
4、予算。地区からの100万円、登録料一人12,000円。
5、インターアクト、ローターアクトの参加をどうするか、前年度は参加。登録料一人6,000円、（地区の委員会負担）ガバナーエレクトに相談する。
6、キャッスルの予算は友愛の広場や昼食費を軽くしても1,200万円以下にはならない。消費増税が大きい負担。
7、前年度の概算見積りの中で実行委員会諸経費122万円は不用ではないか。
8、決算は全て正確に出す。
9、メンバーが少ないため、学生の応援を依頼するか、どうか。
ユニホームとかお礼金、ボランティア保険、事故責任はどうするか。
親クラブからの応援を受けたらどうか。
それはあまりしたくない。
10、次回の実行委員会は12月6日（金）PM 3:00～に決定。